

## 中期目標の達成状況に関する評価結果

国立大学法人奈良女子大学

法人番号：60

申立ての内容	申立てへの対応
<p><b>【評価項目】</b>            (I) 教育に関する目標            (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標            小項目1-1-2            &lt;判定&gt;</p> <p><b>【原文】</b>            中期目標の達成に向けて<u>進捗している</u></p> <p><b>【申立内容】</b>  <b>【修正文案】</b>の通り変更願いたい</p> <p><b>【修正文案】</b>            中期目標の達成に向けて<u>進捗し、優れた実績を上げている</u></p> <p><b>【理由】</b>            小項目1-1-2の中期計画をすべて実施しており、以下のとおり、理系女性人材育成の取組は優れた取組であるため、判定をご再考願いたい。</p> <p>&lt;特記事項&gt;</p> <p><b>【原文】</b>  <u>(特色ある点)</u>            ○ 日本人社会の中にいるだけでは容易に得られない広い視野と、理工系学修に取り組む強い意欲を持たせるため、平成27年度にお茶の水女子大学と共同で設置した理系女性教育開発共同機構の事業として、毎年10名の学生をシリコンバレー等に派遣し、多数の女性科学者・エンジニアが活躍する米国社会の実相に触れさせる「SEASoN」と題する取組を行っている。また、毎年世界から12名の留学生を招き、日本人学生12名</p>	<p><b>【対応】</b>            判定は原案のとおりとする。</p> <p><b>【理由】</b>            当該小項目達成に向けた取組や活動、成果からみて、「優れた実績を上げている」とまではいえない。            また、特記事項について、達成状況報告書等では、当該取組がなされていることは確認できるものの、「優れた点」とまではいえない。            特記事項本文に関する申立ての下線部については<b>【原文】</b>のみで十分な内容と判断したため、追記しない。</p>

と合わせて「グローバル理系女性育成国際サマーキャンプ (SCORE)」を開催している。  
(中期計画1-1-2-2)

**【申立内容】**

**【修正文案】**の通り変更願いたい

**【修正文案】**

(優れた点)

○ 日本人社会の中にいるだけでは容易に得られない広い視野と、理工系学修に取り組む強い意欲を持たせるため、平成27年度にお茶の水女子大学と共同で設置した理系女性教育開発共同機構の事業として、毎年10名の学生をシリコンバレー等に派遣し、多数の女性科学者・エンジニアが活躍する米国社会の実相に触れさせる「SEASoN」と題する取組を行っており、自然科学研修を行うとともに、女性のキャリアパス育成についての研修も行っている。また、毎年世界から12名の留学生を招き、日本人学生12名が協働して科学を学修する「グローバル理系女性育成国際サマーキャンプ (SCORE)」を開催しており、本学の基本理念に掲げる「男女共同参画社会をリードする人材の育成」を進めるため、理工系諸分野の教育に力を注ぎ、理工系女性リーダーの輩出に努めている。(中期計画1-1-2-2)

**【理由】**

本取組は、法人の特徴として大学の基本的な目標（中期目標前文）にも掲げる理念に深く関与する個性の伸長に向けた取組の一つであり、女性人材の育成と支援の実現を図る優れた取組であるとともに、戦略性が高く意欲的な目標・計画でもある。第2期中期目標期間終了時点から比べても参加者は累積して着実に増加するなど目覚ましい状況にあるため、「特色ある点」ではなく、「優れた点」としてご判断いただきたい。

## 中期目標の達成状況に関する評価結果

国立大学法人奈良女子大学

法人番号：60

申立ての内容	申立てへの対応
<p><b>【評価項目】</b>            (1) 教育に関する目標            (2) 教育の実施体制等に関する目標            小項目1-2-1            &lt;判定&gt;</p> <p><b>【原文】</b>            中期目標の達成に向けて<u>進捗している</u></p> <p><b>【申立内容】</b>  <b>【修正文案】</b>の通り変更願いたい</p> <p><b>【修正文案】</b>            中期目標の達成に向けて<u>進捗し、優れた実績を上げている</u></p> <p><b>【理由】</b>            小項目1-2-1の中期計画をすべて実施しており、以下のとおり、大学のダイバーシティ化の実現を図る優れた取組であるため、判定をご再考願いたい。</p> <p>&lt;特記事項&gt;</p> <p><b>【原文】</b>  <u>(特色ある点)</u>            ○ 今後多様性を増していく学生の修学条件を改善するために、「ならっこネット」(土日、早朝、夜間を含む子どもの預かりや送迎のサポートを実施)及び「イベント託児システム」(学会やシンポジウムなどのイベント開催時の託児ニーズに対応)を充実させている。平成28年度には「ならっこネット」のシステムを改善した新システム「Webならっこ」の運用を開始している。また、平成29年度は、共助サポーター(な</p>	<p><b>【対応】</b>            原案のとおりとする。</p> <p><b>【理由】</b>            当該中期計画に係る取組がなされていることが達成状況報告書等から確認できるものの、小項目に照らして「優れた実績を上げている」とまではいえない。            また、小項目の判定について、当該小項目達成に向けた取組や活動、成果からみて、「優れた実績を上げている」とまではいえない。            なお、特記事項について、達成状況報告書等では、当該取組がなされていることは確認できるものの、「優れた点」とまではいえない。            特記事項本文に関する申立ての下線部については<b>【原文】</b>のみで十分な内容と判断したため、追記しない。</p>

らっこネット登録サポーターのうち利用者との互いの要望が合致した方で、子ども一人ひとりに複数配置)による手厚い支援を行う「ならっこコース」と、利用頻度が少ない方が気軽に利用できる「プチならっこコース」を利用者が選択できるように改善を行っている。さらに、「ならっこネット」を利用する学生に適用される「育児奨学金制度」は、平成29年度から新たに適用範囲を休日や長期休暇中にまで拡大している。

(中期計画1-2-1-2)

**【申立内容】**

**【修正文案】**の通り変更願いたい

**【修正文案】**

(優れた点)

○ 今後多様性を増していく学生の修学条件を改善するために、「ならっこネット」(土日、早朝、夜間を含む子どもの預かりや送迎のサポートを実施)及び「イベント託児システム」(学会やシンポジウムなどのイベント開催時の託児ニーズに対応)を充実させている。平成28年度には「ならっこネット」のシステムを改善した新システム「Webならっこ」の運用を開始している。また、平成29年度は、共助サポーター(ならっこネット登録サポーターのうち利用者との互いの要望が合致した方で、子ども一人ひとりに複数配置)による手厚い支援を行う「ならっこコース」と、利用頻度が少ない方が気軽に利用できる「プチならっこコース」を利用者が選択できるように改善を行っている。さらに、「ならっこネット」を利用する学生に適用される「育児奨学金制度」は、平成29年度から新たに適用範囲を休日や長期休暇中にまで拡大したことにより、授与者の年間の延べ人数が、平成28年度は1名だったものから平成30年度は4名へと増加した。また、ポストドクターを対象としたポストドクター育児支援金制度

は、平成30年度に利用できるケースを拡大することで年間の利用の延べ人数が平成29年度の0名から平成30年度は2名へと増加している。これらの取組により、女性のライフイベントを考慮した適切で柔軟な環境が整備され、学生の主体的な学びを促進した。（中期計画1-2-1-2）

**【理由】**

本事業は、今後多様性を増していく学生の修学条件を良好なものにするために整備しているものであり、女性人材の育成と支援を図るものである。また、病児・病後児支援の実現に向けた取組や、2019年度に採択された文部科学省科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）事業において選定されたことによっても、子育て支援システムの機能拡張、利用者拡大などにつながる取組に着手している。これらは、法人の特徴として大学の基本的な目標（中期目標前文）にも掲げる理念に深く関与する個性の伸長に向けた取組の一つであり、女性人材の育成と支援の実現を図る優れた取組であるため、「特色ある点」ではなく、「優れた点」としてご判断いただきたい。

<判定結果一覧表>

中期計画1-2-1-2（★）

**【原文】**

中期計画を実施している

**【申立内容】**

**【修正文案】**の通り変更願いたい

**【修正文案】**

中期計画を実施し、優れた実績を上げている

<p><b>【理由】</b></p> <p>本取組は、法人の特徴として大学の基本的な目標（中期目標前文）にも掲げる理念に深く関与する個性の伸長に向けた取組の一つであり、女性人材の育成と支援の実現を図る優れた取組であるとともに、育児奨学金の授与者や利用者数が着実に増加していることから、判定をご再考願いたい。</p>	
---	--

## 中期目標の達成状況に関する評価結果

国立大学法人奈良女子大学

法人番号：60

申立ての内容	申立てへの対応
<p><b>【評価項目】</b>            (1) 教育に関する目標            (4) 入学者選抜に関する目標            小項目1-4-2            &lt;判定&gt;</p> <p><b>【原文】</b>            中期目標の達成に向けて進捗している</p> <p><b>【申立内容】</b>  <b>【修正文案】</b>の通り変更願いたい</p> <p><b>【修正文案】</b>            中期目標の達成に向けて進捗し、優れた実績を上げている</p> <p><b>【理由】</b>            小項目1-4-2の中期計画をすべて実施しており、以下のとおり、理想的な中等教育を実現し、多様な人材の育成を推進する優れた取組を実施していることから、判定をご再考願いたい。</p> <p>&lt;特記事項&gt;</p> <p><b>【原文】</b>  <u>(特色ある点)</u>            ○ 文理統合的視点の獲得を可能にするカリキュラムによる中等教育と、それを受けた大学における高等教育を通じて、広い視野を持ちつつ高度な専門性を身につけた人材育成プログラムとして、「高大接続文理統合探究コース (PICASOコース)」を令和元年度に設置している。このコースは、附属中等教育学校の5年生及び6年生を対象として、大学教員と附属中等教育学校教員</p>	<p><b>【対応】</b>            判定は原案のとおりとする。</p> <p><b>【理由】</b>            当該小項目達成に向けた取組や活動、成果からみて、「優れた実績を上げている」とまではいえない。            また、特記事項について、達成状況報告書等では、当該取組がなされていることは確認できるものの、「優れた点」とまではいえない。            特記事項本文に関する申立ての下線部については<b>【原文】</b>のみで十分な内容と判断したため、追記しない。</p>

が協働して開発したカリキュラムに基づき、剥落しない学力を育成することを目的とした2年間の高大接続プログラムであり、令和元年度には、男子10名及び女子13名の計23名がPICASOコースを履修している。また、PICASOコースを履修した女子生徒に対して、探究活動の発表、探究活動に関する論文、調査書、志望理由書及びコースの履修状況等によって、基礎的学力、論理的思考力及び課題発見・解決能力等を総合的に評価・選考する新しい入試制度を設計し、令和3年度入試より実施している。  
(中期計画1-4-2-1)

**【申立内容】**

**【修正文案】**の通り変更願いたい

**【修正文案】**

(優れた点)

○ 文理統合的視点の獲得を可能にするカリキュラムによる中等教育と、それを受けた大学における高等教育を通じて、広い視野を持ちつつ高度な専門性を身につけた人材育成プログラムとして、「高大接続文理統合探究コース (PICASOコース)」を令和元年度に設置している。このコースは、附属中等教育学校の5年生及び6年生を対象として、大学教員と附属中等教育学校教員が協働して開発したカリキュラムに基づき、剥落しない学力を育成することを目的とした2年間の高大接続プログラムであり、大学での豊かな「探究」に必要とされる能力を中等教育段階において高めることを目的とし、生徒は、高大が協働して開発・開講する授業科目を通して高度な「知識」に触れつつ、自修による深化や生徒間のコミュニケーションを通して、探究の力を育むことができ、生徒が自ら設定したテーマを「探究のアウトプット」(探究活動に関する論文)の形に結実させるという修了目標を設定する。令和元年度には、男子10名

及び女子13名の計23名がPICASOコースを履修している。また、PICASOコースを履修した女子生徒に対して、探究活動の発表、探究活動に関する論文、調査書、志望理由書及びコースの履修状況等によって、基礎的学力、論理的思考力及び課題発見・解決能力等を総合的に評価・選考する新しい入試制度を設計し、令和3年度入試より実施している。このプロセスを通して、他の教科・科目への取組姿勢の質をも高め、相乗効果を生み出すこと、すなわち早すぎる文理選択や各教科の暗記科目化等、入学試験対策に偏りがちな従来の中高等教育とは根本的に異なる、理想的な中高等教育につながることが期待される。(中期計画1-4-2-1)

**【理由】**

本取組は、大学と附属学校が連携し、入学者選抜のあり方を抜本から見直し、入学試験対策に偏りがちな従来の中高等教育とは根本的に異なる理想的な中高等教育を実現し、多様な人材の育成を推進する優れた取組である。また、附属中等教育学校、小学校、幼稚園の大学附属学校園を持つ特徴を活かし、社会の要請や時代の変化に対応すべく、多様な人材の育成を推進する本学の個性を伸長する優れた取組であることから、「特色ある点」ではなく、「優れた点」としてご判断いただきたい。

中期目標の達成状況に関する評価結果

国立大学法人奈良女子大学

法人番号：60

申立ての内容	申立てへの対応
<p><b>【評価項目】</b>                      (I) 教育に関する目標                      (4) 入学者選抜に関する目標                      小項目1-4-3                      &lt;判定&gt;</p> <p><b>【原文】</b>                      中期目標の達成に向けて進捗している</p> <p><b>【申立内容】</b>  <b>【修正文案】</b>の通り変更願いたい</p> <p><b>【修正文案】</b>                      中期目標の達成に向けて進捗し、優れた実績を上げている</p> <p><b>【理由】</b>                      小項目1-4-3の中期計画をすべて実施しており、以下のとおり、女性のライフイベントに配慮しつつ、多様な大学院生を受入れるという本学の個性を伸長させる優れた取組であることから、判定をご再考願いたい。</p> <p>&lt;特記事項&gt;</p> <p><b>【原文】</b>                      (特色ある点)</p> <p>○ 大学院に多様な学生を受け入れるため、令和元年度入試から「再チャレンジ型女性研究者支援制度」を導入している。出産、育児及びその他のライフイベント等によって博士後期課程を退学した者に対し、入学料を免除し、入学前の既修得単位を上限10単位まで認定するものであり、他大学の博</p>	<p><b>【対応】</b>                      原案のとおりとする。                      ただし、意見を踏まえ、以下のとおり一部修正する。</p> <p>(修正内容)</p> <p>&lt;特記事項&gt;                      (特色ある点)</p> <p>○ 大学院に多様な学生を受け入れるため、令和元年度入試から「再チャレンジ型女性研究者支援制度」を導入している。出産、育児及びその他のライフイベント等によって博士後期課程を退学した者に対し、入学料を免除し、入学前の既修得単位を上限10単位まで認定するものであり、他大学の博士後期課程退学者も対象としている。なお、令和元年度入学志願者のうち2名及び令和2年度入学志願者のうち1名が本制度によって支援を受けている。また、令和2年度入試から、奈良女子大学の大学院博士前期課程修了後に社会人経験を経た者を対象に、入学料を徴収しない「博士前期課程修了者博士号取得支援制度」を導入し、令和2年度は1名の入学者に適用している。</p> <p><b>【理由】</b>                      当該小項目達成に向けた取組や活動、成果からみて、「優れた実績を上げている」とまではいえない。                      また、特記事項について、達成状況報告書等では、当該取組がなされていることは確認できるものの、「優れた点」とまではいえない。                      特記事項本文に関する申立ての下線部については一部を除き、<b>【原文】</b>のみで十分な内容と判断したため、追記しない。</p>

士後期課程退学者も対象としている。なお、令和元年度入学志願者のうち2名及び令和2年度入学志願者のうち1名が本制度によって支援を受けている。また、令和2年度入試から、奈良女子大学の大学院博士前期課程修了後に社会人経験を経た者を対象に、入学料を免除する「博士前期課程修了者博士号取得支援制度」を導入し、令和2年度は1名の入学者に適用している。（中期計画1-4-3-1）

【申立内容】

【修正文案】の通り変更願いたい

【修正文案】

（優れた点）

○ 大学院に多様な学生を受け入れるため、令和元年度入試から「再チャレンジ型女性研究者支援制度」を導入している。出産、育児及びその他のライフイベント等によって博士後期課程を退学した者に対し、入学料を免除し、入学前の既修得単位を上限10単位まで認定するものであり、他大学の博士後期課程退学者も対象としており、広く他大学出身者にも門戸を開き、女性の学位への再チャレンジを支援する取組となっている。なお、令和元年度入学志願者のうち2名及び令和2年度入学志願者のうち1名が本制度によって支援を受けている。また、令和2年度入試から、奈良女子大学の大学院博士前期課程修了後に社会人経験を経た者を対象に、入学料を徴収しない「博士前期課程修了者博士号取得支援制度」を導入し、令和2年度は1名の入学者に適用しており、社会人や学び直し希望者等を積極的に受け入れ、多様な教育ニーズに応える多様な教育を実施している。（中期計画1-4-3-1）

【理由】

再チャレンジ型女性研究者支援制度及び

<p>博士前期課程修了者博士号取得支援制度は、大学院において、社会人や学び直し希望者等多様な学生を受け入れ、その多様な学生の多様なニーズに応えることができる教育制度を確立するとともに、大学のダイバーシティ化の実現を図るものであり、「男女共同参画社会をリードする人材の育成」を進める本学の個性を伸長する優れた取組であることから、「特色ある点」ではなく、「優れた点」としてご判断いただきたい。</p>	
--	--

## 中期目標の達成状況に関する評価結果

国立大学法人奈良女子大学

法人番号：60

申立ての内容	申立てへの対応
<p><b>【評価項目】</b>  (IV) その他の目標  (1) グローバル化に関する目標  小項目4-1-1  &lt;判定&gt;</p> <p><b>【原文】</b>  中期目標の達成に向けて進捗している</p> <p><b>【申立内容】</b>  <b>【修正文案】</b>の通り変更願いたい</p> <p><b>【修正文案】</b>  中期目標の達成に向けて進捗し、優れた実績を上げている</p> <p><b>【理由】</b>  小項目4-1-1の中期計画をすべて実施しており、以下のとおり、グローバル化を推進する優れた取組であるとともに、第2期中期目標期間終了時点から比べて目覚ましい状況にあると判断されると考えるため、判定をご再考願いたい。</p> <p>&lt;特記事項&gt;</p> <p><b>【原文】</b>  <u>該当なし</u></p> <p><b>【申立内容】</b>  <b>【修正文案】</b>の通り変更願いたい</p> <p><b>【修正文案】</b>  <u>○ 留学を奨励するため、留学準備教育として、英語での教養科目や留学志望者用のオンラインマンツーマン英語レッスンを授</u></p>	<p><b>【対応】</b>  原案のとおりとする。</p> <p><b>【理由】</b>  小項目の判定について、当該小項目達成に向けた取組や活動、成果からみて、「優れた実績を上げている」とまではいえない。  また、特記事項に関する申立てについては、達成状況報告書等では、当該取組がなされていることは確認できるものの、「優れた点」とまではいえない。</p>

業外課題として組み込んだ科目の新設、「奈良女子大学国際空間CotoQue」を創設して国際交流イベントを開催している。また、短期海外研修の拡充や経済的支援等の取組により、日本人派遣留学生数は令和元年度143名となり、中期計画目標値の100名を43%も上回る実績を上げている。（中期計画4-1-1-1）

○ 留学生受入れを促進するため、留学生用の日本語科目や英語による科目の増設、短期プログラムの拡充、特待留学制度や海外協定校からの交換留学生への経済的支援等の取組により、受入留学生数は令和元年度275名となり、平成28年度受入れ数から4年間で65%増加し、中期計画目標値の250名を上回る実績を上げている。（中期計画4-1-1-1）

**【理由】**

留学志望者用に、授業外課題にオンラインマンツーマン英語レッスンを組み込んだ科目は、英語運用能力の向上と国際性の涵養を目的としており、受講生の約71%が事前事後リスニングテストにおいて得点が伸長し、約59%が受講後に留学を経験している。また、「奈良女子大学国際空間CotoQue」の国際交流イベントは、令和元年度43件、延べ371名が参加しており留学の奨励に大きく貢献している。加えて、短期海外研修を平成28年度以降倍増し、年間で10プログラムを実施。4年間で日本人学生のべ322名が参加した。これらの取組みの結果、日本人派遣留学生数が平成26年度52名から、第3期に入り平成28年度103名、令和元年度には143名と大幅に増加しており、中期計画目標値の100名を43%も上回る優れた実績を上げている。

また、留学生受入れでは、留学生用の日本語科目を第3期に8科目10クラスを新設、英語による科目は第2期から3.5倍に増設させた。大学主催の留学生用短期プログ

ラムを順次拡充して4年間でのべ183名の外国人留学生が参加している。さらに戦略的に海外協定大学からの交換留学生を受け入れるため、大学基金から渡航旅費を支援し、特待留学制度により奨学金を支給しており、海外拠点大学からは毎年1名ずつ受け入れている。これらの取組みの結果、受入留学生数が平成26年度141名から、第3期に入り平成28年度167名、令和元年度には275名と4年間で65%増加しており、中期計画目標値の250名を10%上回る実績を上げている。

以上のことから、中期計画を上回る優れた点としてご判断いただきたい。